



Title	エスノグラフィの研究データ管理入門：オープンサイエンス時代のなかで
Author(s)	神崎, 隼人; 森田, 敦郎; 韓, 智仁 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104332
rights	This article is licensed under a Creative Commons Attribution-ShareAlike 4.0 International License.
Note	本教材の作成にあたって、綾部真雄先生、小田博志先生、木村周平先生、佐本英規先生、中空萌先生、深山直子先生、村津蘭先生（五十音順）の諸先生方にはヒアリングの機会をいただきました。厚くお礼申し上げます。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

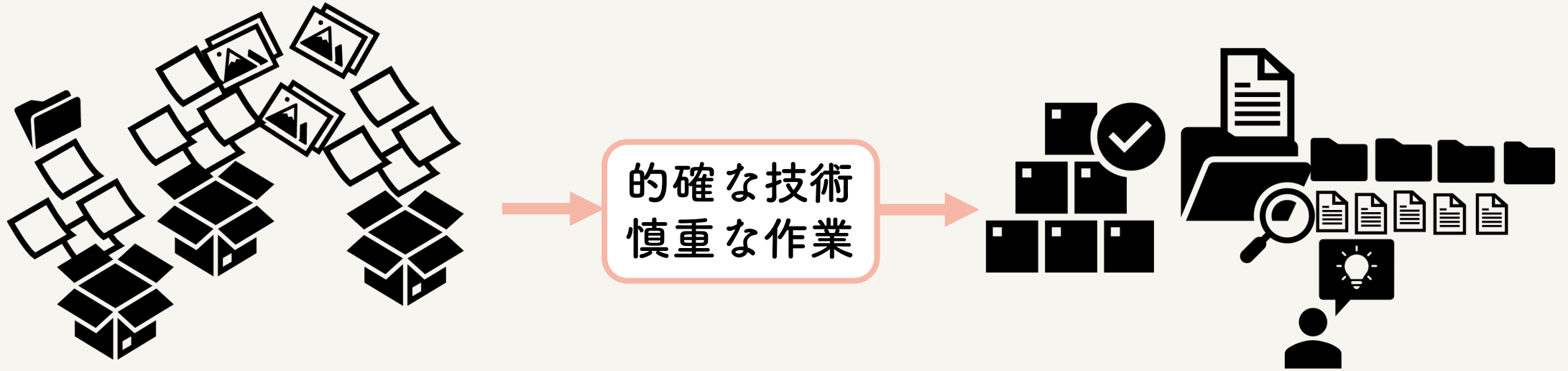
The University of Osaka

講義3

エスノグラフィのフィールドワークを実施する

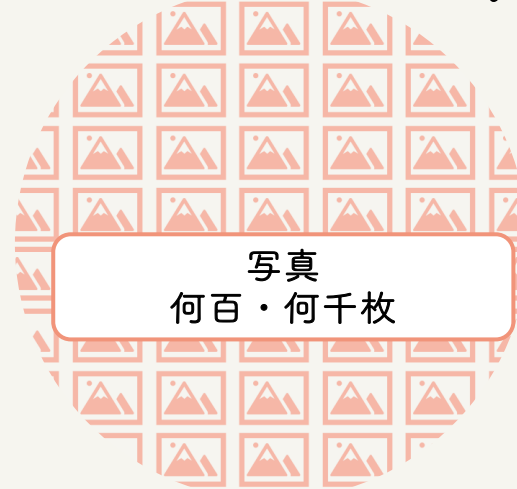
エスノグラフィの研究データ管理入門:オープンサイエンス時代のなかで

フィールドワークでの研究データ管理



- フィールドワーク中のありとあらゆる記録は研究データとなり得る分、情報は極めて複雑かつ雑多な集積であるまま。
- 集積から「良いデータ」を作るには「技術と慎重な作業が必要」

フィールドワークでの研究データ管理



- フィールドワークでの研究データ量は膨大
- 研究データのバリエーションも様々（講義2参照）
- ⇒ エスノグラフィの研究データ管理を身に着ける必要

フィールドワークでの研究データ管理

研究データ管理方法は、

- 調査地や調査協力者の特徴に合わせて、それに適したやり方を模索する。
- 適していないやり方を無理に当てはめない。

エスノグラフィのフィールドノート

1) 「速記メモ」

- 実際の観察時に現場でとられた短縮記録、メモのこと。
- 多くの場合、手の平サイズのノートに走り書きされる。

アナログ

2) 「清書版フィールドノート」

- 現場を離れてすぐに作成される、より詳細な日誌形式の記録。
- 速記メモをもとにMSWordなどで作成される。

デジタル

フィールドノート①:速記メモ

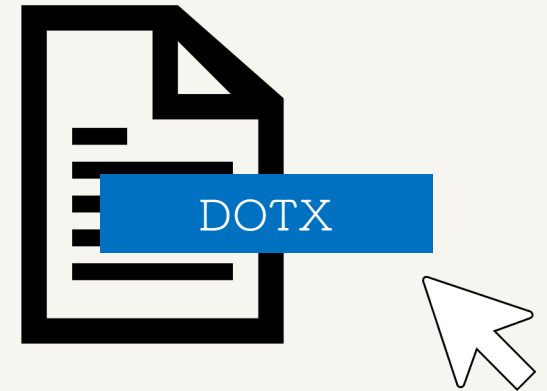
- インデックスの作成
 - 表紙などに分かりやすく
 - ノート番号、日付、調査場所
 - 表で管理し検索しやすく など
- 適切な保管方法・場所の計画
- 研究終了後5年間+5年間
 - (他分野でも10年間保存が一般的)



フィールドノーツ②: 清書版

1) テンプレートを用意する

- 大阪大学OneDrive上のWordの使用推奨
 - オープン化に向けたフィールドノーツの開発「オープン・エスノグラフィ」 講義5
- テンプレートファイルを用意する
 - (e.g. 「0_フィールドノーツのテンプレート.dotx」等)



0_フィールドノーツテンプレ.dotx

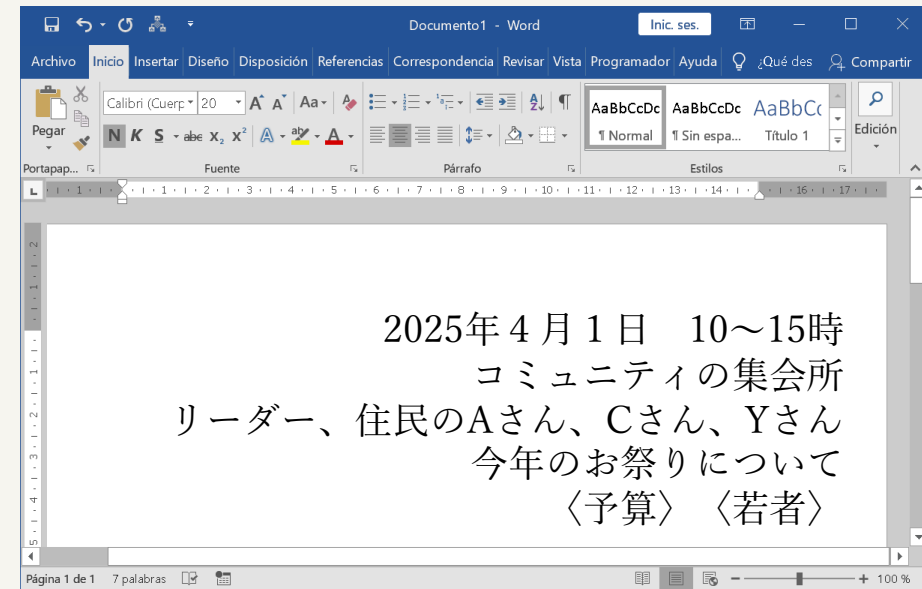
フィールドノーツ②:清書版

1) テンプレートを用意する

- ファイルの命名規則を先に決定する
 - e.g. 「8桁の数字_内容の簡潔な記述.docx」等
- それぞれの記録のメタデータを整える
 - e.g. データ取得日、記録日、実施場所、参加メンバー、主な活動、分析的キーワード等
- ※ファイル名やメタデータには、秘匿情報等を含めないように注意。



20250401_コミュニティ集会.docx

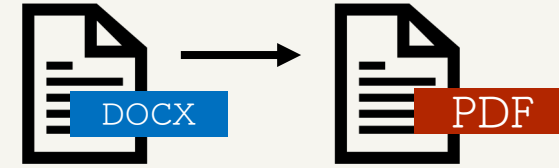


この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

フィールドノーツ②:清書版

2) 記載法を決める

- 記載法を決める
 - e.g. 現地の人発言は「…」、後から追加した情報は[…]など
- 分析、執筆ステップを効率化できるようにつくる
 - 分析ステップでは、研究データを限定的に共有し、分析セッション開くことができる。
 - 清書版フィールドノーツは共有しやすく改変できないファイル形式(pdf)が効率的。
 - cf. 質的データ分析(QDA)ソフトウェアにインポートする→講義4。



……………Xおじさんが「あの黒い鳥が高いところに飛んでいるのが見えるか？ [真上を指差す] あれは○○○○だよ。雨が降ると思う」と言った。私も真上を見て、なぜその鳥は雨と関係していると思うかと質問した。するとおじさんは「……………」と答えた。この○○○○と呼ばれる鳥の学名は調べるとXXXXだと分かった。

……………このXおじさんの○○○○と雨の結びつけは、〈鳥と天気〉という分析のテーマになりそうだ。


●月●日追記：この時、私はまだよく分かっていなかったの……

フィールドノーツ②:清書版

3) 連結匿名化

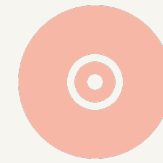
- 個人情報・秘匿情報の管理
- 調査協力者は匿名を付し、名前対応表を作成
- 名前対応表は機密性の観点から
大阪大学OneDriveで管理

Aさん	○○○○
Bさん	▲▲▲▲
Cさん	●●●●
.....



フィールドノーツ②:清書版

4) バックアップ



- オリジナルファイルは大阪大学OneDrive内に保存
- コピーファイルをOneDrive内の別フォルダや別の媒体に保存
- ハードディスクやUSB、印刷してファイリングなど、別々な形式・場所で保管
- ファイルの損傷は起きやすい点に注意。バックアップを習慣化

インタビューのデータ トランスクリプトと録音データ

インタビューシートのテンプレートを作成する

- OneDriveのWordやExcel
- 話し手、発言内容、補足メモなどの欄

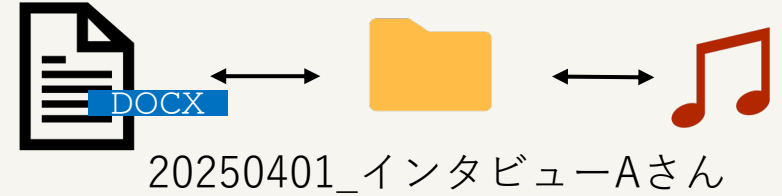
インタビューの録音データ

- インタビューの録音機器の検討

●月▲日
Aさんにインタビュー
〇〇について

A さん	(発言内容について、 その場で速記した内容 など)	メモ 考える 様子
私		

インタビューのデータ トランスクリプトの記載方法とデータ間の連携



3) トランスクリプトの記載方法を決定する

- 文字化のルール (e.g. 休止時間は (...))、声量の大小の、推測部分は [...])

4) データ間の紐づけ

- インタビュー時のシート、録音データ、トランスクリプトデータの紐づけが分かるように保管 (e.g. 「8桁の日付_インタビュー_調査協力者の匿名」)
- トランスクリプトデータは調査協力者に共有し、内容の確認や事後的なデータ削除などに対応

4月1日
Aさんにインタビュー
〇〇について

A さん	そうですね、それにつ いては (3秒)で、 [語気を強める]	メモ 考える様 子
私	そうなんですか、では、	

写真や映像データ、その他の視覚的データ

1) 機器を検討する

- カメラ機器の多様性 ⇒ 研究データの質・量に差
 - e.g. スマートフォンのカメラ (利便性、軽めのデータ)、一眼レフカメラ (ハイクオリティ、大きなデータ)
- プロジェクトでの写真・映像データの役割を検討し、定める
 - e.g. 映像人類学作品の作成 ⇔ インタビューでの写真活用
- オリジナルデータとバックアップファイルの保存方法
- 調査協力者のプライバシーの保護

写真や映像データ、その他の視覚的データ

2) メタデータや社会状況の情報を記録する

- スマートフォンやデジタルカメラではメタデータは自動記録される
 - e.g. 日付、時刻、位置情報等
- 写真データのエスノグラフィ的な文脈情報を紐づけて記録
 - e.g. 被写体、状況等の情報
- データとメタデータ・社会情報などの情報を紐づけて管理

写真や映像データ、その他の視覚的データ

3) 共有と公開、利活用

- 写真や映像データは、共有と公開、利活用の可能性が高い
 - e.g. 調査協力者との協働での撮影、調査協力者に対する上映会、作品の公開、データ分析セッション、展示会
- 公開可能な研究データを機関リポジトリで公開する
 - ⇒ 講義5

デジタル社会における研究データ

近年はオンライン上のコミュニティのフィールドワークや、ウェブ上のデータを用いる。

1) オンラインのフィールドワーク

- バーチャル・エスノグラフィ [Hine 2000]
- オンライン上のコミュニティの参与観察

⇒ 従来の方法を適用可能。

*オンライン会議システムでのインタビューでは、画面録画や自動トランスクリプトのデータ

2) ウェブ上のデータの利用

- デジタルメソッド [Rogers 2019]
- ウェブ上から研究データを生成
 - Internet Archiveのウェブページのデータ
 - ソーシャルメディア上のユーザーのデータ
 - Google上のウェブページのURLやハイパーリンク
- 研究データ利用・公開にあたり、ルールやガイドライン、倫理的側面を考慮
- メタデータや多様な形式のデータの体系的な管理

参照資料

- リチャーズ, L. 2009『質的データの取り扱い』大谷順子・大杉卓三
訳 北大路書房.
- Hine, C. 2000. *Virtual Ethnography*. SAGE.
- Rogers, R. 2024. *Doing Digital Methods*. 2nd Edition, p.
xxii. SAGE.